

令和4年10月18日
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立豊津中学校
校長 中西 多恵子

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語

【調査結果より】

設問14問中、平均正答率が全国値を上回っていた設問は11問で、そのうち大きく上回っていたものは9問でした。

【概要】

本校生徒の平均正答率はほとんどの設問において全国値を上回っており、良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・ほとんどの設問において正答率が全国値を大きく上回り、良好な結果でした。
- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことには課題が残ります。

情報の扱い方に関する事項

- ・全国値を下回り課題が残ります。
- ・具体的な情報を文脈から精査し、適切に処理する力を養う必要があります。

我が国の言語文化に関する事項

- ・ほとんどの設問において正答率が全国値を上回り良好な結果でした。
- ・行書の特徴を理解することにやや課題があります。

話すこと・聞くこと

- ・ほとんどの設問において正答率が全国値を大きく上回り、良好な結果でした。
- ・情報を聞き取り会話する力に長けた生徒が非常に多く、日常の学びの積み重ねが結果に結びついたと考えます。
- ・表現を工夫して話すことについては課題が残ります。

書くこと

- ・全国値を下回り、問いの趣旨を読み取り、適切に表現することに課題が残ります。
- ・抽象的な概念を筋道立てて文章化する練習を授業で取り入れ、活動していきます。

読むこと

- ・全国値を大きく上回り良好な結果でした。
- ・日常生活の中で長文に触れている生徒も多く、普段の活発な読書活動も結果につながったと考えます。

【国語科における成果と今後の改善点について】

全体的な結果としては全国平均を上回るものが多い結果となり、文章読解や話すことには高い習熟度が見られますが、「考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」設問の正答率が低く、言語事項を記述する問題等に若干の課題が残ります。授業内においても、例えば端末を活用して、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりする等、考えを伝える、わかりやすく工夫することに焦点をあて、記述問題に力点を置いて活動させていきたいと考えます。

●数学

【調査結果より】

設問 1 4 問中、平均正答率はすべての問題で全国値を上回り、そのうち 1 3 問については、大きく上回る結果でした。

【概要】

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

数と式

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り、良好な結果でした。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題に関しては、その他の設問と比べると正答率が低く、課題が残ります。

図形

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り、良好な結果でした。
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題に関しては、その他の設問と比べると正答率が低く、課題が残ります。

関数

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り良好な結果でした。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に関してその他の設問と比較すると正答率が低く課題が残ります。

データの活用

- ・すべての項目において全国値を上回り良好な結果でした。
- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題に関して、その他の設問と比べると正答率が低く課題が残ります。

【数学科における成果と今後の改善点について】

4領域あるすべての分野で全国平均と比較すると正答率が大きく上回っていることから、基礎・基本に関しては普段の学習の成果が現れています。一方で、与えられたデータの傾向を読み取る問題に関しては比較的正答率が低いことから、複数の資料の比較、データの分析などを行う機会を設定し、根拠を数学的な表現を用いて説明することができる場面を授業に取り入れていく必要があります。また、記述問題に関する苦手意識を少なくしていくために、授業内で1問1答のやり取りだけを行うのではなく、自分の考えを書く時間、それを他者に伝える活動を取り入れ、表現することへの抵抗感をなくしていきたいと考えます。

●理科

【調査結果より】

設問21問中、平均正答率が全国値を上回っていた設問は20問で、そのうち9問については大きく上回る結果でした。

【概要】

本校生徒の平均正答率はほとんどの設問において全国値を上回り、良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

エネルギー

- ・すべての項目において全国値を上回り、良好な結果でした。
- ・変える条件と変えない条件を制御した実験を計画する問いでは、その他の設問と比較すると正答率が低く、課題が残ります。

粒子

- ・すべての項目において全国値を上回り、良好な結果でした。
- ・評価の観点「思考・判断・表現」の問いでは、その他の設問と比較すると正答率が低く、課題が残ります。

生命

- ・ほとんどの項目において全国値を上回り、良好な結果でした。
- ・「動物の観察結果をもとに分析して解釈できるか」を記述する問題では全国値をやや下回っており、課題が残ります。その他の問題でも他の柱の領域と比較すると正答率が低くなっています。

地球

- ・すべての項目において全国値を上回り、良好な結果でした。
- ・地層や岩石について問われる設問では、その他の設問と比較すると無回答率が大阪府値や全国値をやや上回り、苦手意識の高さが伺えます。

【理科における成果と今後の改善点について】

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」における各領域で、全国値と比較すると上回っていることから、基本的な内容について、基礎・基本を繰り返し学習している成果が表れています。また、知識・技能を問われる問題について、各分野で、正答率の高い問題があり、学習の成果が表れています。

一方で、実験や観察を立案したり結果から現象を解釈する問題では、比較的正答率が低い結果となりました。基礎・基本を繰り返す学習を継続していきながら、日頃から考えて予想したり、結果を得たその先を考えたりする力をつけていく必要性があります。様々な問題を解決できるようにするために、実体験に伴った活動を通して、考え抜く力を育成することが重要です。そのために、実験等の活動やレポート作成を通じて、考える幅を広げ考察する機会を増やし適切な支援を行っていきます。また、探求の過程や方法を振り返り実験の計画や操作等についても生徒が主体的に検討し改善するために、話し合い活動を通して実験の計画を再検討する等の取り組みもすすめてまいります。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【調査結果より】

肯定的回答と否定的回答を求める設問56問中、肯定的回答70%以上が39問(70%)、うち80%以上が20問(36%)となりました。

12問について全国値を大きく上回り、5問について、大きく下回りました。

【成果と課題について】

生活習慣

朝食、睡眠、基本的な生活習慣は高い割合で身に付いています。特に、「決まった時間に寝る」「スマホやPCの約束を守る」項目については肯定的意見が昨年度より増加しました。「1日に2時間以上ゲーム、SNS、動画視聴」の割合はやや減少しましたが、50%弱はまだ2時間以上続けているという結果です。

自分自身のこと・規範意識・友人関係

多くの項目で80%以上の肯定的回答が見られ、自分自身のことを大切に思い、規範意識も高くなっています。特に、「自分にはよいところがある」「いじめは絶対にいけない」の項目は昨年を上回る結果となりました。「先生が認めてくれる」については90%近い回答を得ており、「大人に相談できる」についても、全国を大きく上回り、互いの信頼関係が伺えます。

将来の夢については、昨年は上回るものの、全国とほぼ同様に、70%には至っていません。「学校が楽しい」の回答は85%をこえ、全国を上回っています。

学習環境・読書活動

平日、土日ともに、勉強時間が1時間に満たない割合が30%近くあります。計画的に学習を行っている割合は60%弱です。

「読書が好き」は全国を下回り、授業以外で読書をしない割合は昨年同様全国を下回ってはいるものの、35%以上います。家に本が100冊以上ある割合は非常に高くなっています。

地域社会

地域社会への参画については、コロナ禍の影響もあり、課題は残ります。

ICT機器

週1回以上タブレットPCを使う割合は80%以上で全国を上回り、90%弱が役に立つと考えています。調べ学習、意見交換、考えのまとめ等の項目については、まだ全国を下回っています。

言語活動・学習領域等

話しあう、自分の考えをまとめ、伝える、課題解決にむけて主体的に取り組むことについては、すべての項目で70%以上の安定的な回答となっています。

教科

国語・数学ともに、大切だ、よくわかる、役に立つという項目はすべて70%以上ですが、「国語が好き」は50%弱、「数学が好き」は50%強と低い回答となっていますが、数学の問題を解くときに、あきらめずに解き方を考える、公式の理由を考えるとといった点は良好な結果が見られます。

理科は好きな生徒は65%弱で、特に実験や考察について、積極的に授業に参加している回答が高く、全国値を上回っています。

3 今後の取組み

教科に関する結果から、すべての教科の平均正答率は全国値を上回る良好な結果となり、国語については昨年度よりかなり力を伸ばし、数学については、すべての設問について全国値を大きく上回り、理科については1問を除くすべての設問について全国値を上回ったことから、各教科とも基礎基本とその活用能力がしっかりと身に付いています。

理科については、正答率の低さが報道でも取り上げられていますが、本校については良好な結果となり、学習に対する意識も高くなっています。

今後もどの教科についても、授業全体をとおして特に考えを相手にわかりやすく工夫して伝える等の学習活動を継続的に行い、言語活動を軸にして生徒があきらめず自信をもって問題に取り組む姿勢を培っていきます。

また本校では、端末を用いた授業、ドリル教材、デジタル教科書、デジタル図書などを有効に活用し、学校と家庭の学びの連続性をもって学習に取り組む環境を整備しています。今後も学校と家庭が連携し、より効果的な学習が実現できるよう取組をすすめてまいります。

生活環境・学習習慣などに関する結果から、基本的な生活習慣が身に付いている生徒の割合が高い反面、家庭学習の時間が減少傾向にあることや、ゲームやSNS、動画視聴に2時間以上費やす割合が5割近くにのぼっていることから、計画的に学習時間を確保できているかどうか懸念されるところです。

情報化の波は中学生にも広がり、スマートフォンの所持率は高く、使い始めるとあっという間に時間がたってしまう。また、タブレットの使い方についても、デジタルシティズンシップ教育を理解したうえでの注意が必要です。部活動等もある中、限られた家庭での時間をどうすごすのか、自分で情報を整理し、調整する能力も育てていかななくてはなりません。

情報を取捨選択する、物事の優先順位をつける、時間を効率的に使う、といったことは将来社会人になっても必ず役立ちます。ぜひご家庭でも話し合ってみてください。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いてはいますが、新しい生活様式を意識しながら日常がずいぶん戻ってきました。自分自身に関することや、規範意識、人と話し合いながら学習することなどについては、非常に安定した結果が得られています。学校は楽しいと考えている生徒が85%となっていますが、そこがもっと広がればなお素晴らしいと考えます。

SUN ネット端末についても、使用頻度とともに、様々な学習場面で活用度をあげ、学習活動に有効に役立てられるよう、教職員とともに活用の研究を進めてまいります。

今年度は、子供たちの心身の状況を注視した取組みもすすめており、学習と心身の健康に留意しながら、「自ら学び、共に生きる、心豊かな、自立した生徒の育成」の実現にむけ、今後とも学校とご家庭が手を携えて子供たちの健やかな育ちと学びを支えられるよう、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。